

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470501541
法人名	地域ケア企業組合
事業所名	グループホーム とのむら
所在地 (電話番号)	津市殿村1553番地 (電話) 059-237-3450
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 9 月 9 日(火)

【情報提供票より】 (H20年8月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 1 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 8人, 非常勤 13人, 常勤換算	15人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	A 58,800 / B 60,900 円	その他の経費(月額)	15,750 円	
敷 金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	315 円	昼食	472 円
	夕食	473 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,260 円			

(4)利用者の概要(8 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	1 名	要介護2	3 名			
要介護3	5 名	要介護4	5 名			
要介護5	4 名	要支援2	名			
年齢	平均	88 歳	最低	72 歳	最高	100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	永井病院 村田歯科クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「地域の中で根を張り良きケアを目指したい」という思いと「入居されている一人ひとりの人生を大切に、最後まで見届ける」という思いが事業運営に活かされ、設立4年目の現在、地域との温かい付き合いや5人の看取りをした結果につながっている。若い管理者層の熱い思いが芽を結びつつあるのを感じる。職員同士も仲がよく、利用者との仲も良い働きやすい雰囲気と職員が自慢する、笑顔の多い事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前年度指摘のあった運営推進会議の開催頻度も2ヶ月ごとに開催されているし、他の項目についても職員全員で改善に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で取り組み、その話し合いの中での気付きからサービスの質の向上に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月毎に開催されており、行政・地域の自治会長等のメンバーと地域との関係や事業所運営に関し、積極的な意見交換がなされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 居室担当者が毎月利用者の詳細について書いた手書きの手紙を家族宛に送っており、家族からはそれに対する返事ももらっている。家族が話しやすい雰囲気づくりをしており、運営推進会議以外でも多くの意見をもらっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会にも入っており、老人会にも加入している。地域の行事には積極的に参加しているし、事業所の催し物には多数の参加を得ており、地域の一軒の家と同様のつながりで交流ができています。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初から、地域の中でいつまでも暮らせることを念頭に、「笑顔、感謝、敬愛」を理念とし、管理者はじめ職員みんなで事業運営している。現在では地域が暖かく事業所を迎え入れてくれており、利用者一人ひとりが穏やかな生活を営んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全員が地域の中で理念の実現を共有しており、ケア時にも「理念」に合った行動が自然と取れるように確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも入っており、老人会にも利用者各人が加入しており、地域の行事には誘われて参加している。また事業所の催物には多数の参加を得ており、地域の普通の家と同様のつながりで交流ができてきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、その中での気づきからサービスの質の向上に努めている。また昨年の改善指摘事項に対しても、みんなで取り組み改善している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催している。事業所からの活動実績や催し物についての報告と、それに対する積極的な意見交換を行い、地域の理解と支援を得ながらサービス向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を津市で始めて開催した関係で、市役所との連携は非常に良く、入居に関することから地域密着型サービスのあり方について話し合う等、サービスの質の向上を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	近況報告を電話でしたり、家族訪問時には詳しく報告もしている。更に毎月、居室担当が手書きで家族宛の手紙を書いており、家族からの返事ももらっている。またホーム通信である「GHとのむら通信」も小遣いの報告と同時に送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が遠慮なくものが言えるような雰囲気づくりをしており、運営推進会議以外でも多くの意見をもらって、その時々状況に応じて対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定着率の高い組織作りを目指しており、ここ数年は職員の異動も離職もほとんどなく、全て馴染みの職員であり、利用者や家族との信頼関係もできている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を受ける機会はパートを含め全職員平等に確保されており、職員各人が自主的に学習することを推奨している。	○	職員の自己啓発による研修参加は非常に大切なことで、引き続き継続を期待したいが、もう一段上への取り組みとして、職員各人に対し、将来の育成計画に沿った研修課題を与えられることも期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、研修・情報交換や相互交流等を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に十分に見学をしてもらい、雰囲気になじんでもらえるよう努力している。また多目的室を利用した体験入所もできる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	何をするにも一緒に、職員・利用者共に1つの家の思いが強く、人生経験豊かな利用者から職員は教えてもらうことが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その日その日の意向ではなく、その人の思いを把握するために、日々の関わり合いの中で昔のことや生活のことを引き出し、暮らし方や生き方の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日ごろの関わりの中で吸い上げた本人や家族の意見を取り入れ、職員全員で検討し、介護計画を作り上げている。居室担当制を採用しており、担当職員はより詳しく情報をつかみ介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回業務ミーティングを行い、全利用者について確認しているし、3ヶ月に1回見直しを行っている。必要に応じて随時見直しも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の理美容の日には、地域の方にも利用してもらっているし、地域の老人介護や医療についての相談も受けている。また利用者の外泊や家族の事業所宿泊も受けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には本人や家族の希望するかかりつけ医としているが、利用者全員が協力医をかかりつけ医としており、日々の変化には即応できる態勢にある。毎週往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	すでに5名の方の看取りを経験しており、本人の状況変化から主治医はじめ本人・家族と連携を取りながら支援している。	○	重度化した場合や終末期の対応については、お元気な時の本人や家族には話し難いものである。契約時等を利用して「重度化にともなう意思確認」と「事業所ができる最大の支援内容」等について、本人や家族と話合う機会をもたれることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーや自尊心を損ねないように、常日頃から職員に意識付けしている。特に「個人情報の漏洩」には細心の気配りをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的なスケジュールはあるが、何をすることも利用者のペースに合わせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士がメニューを作り、準備、調理、盛り付けそして片付けと、職員と利用者が一緒になって行っている。職員も一緒に一つの家族のように食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は希望があれば毎日でも入れるよう準備されているし、一番風呂希望にも応えている。入浴拒否の方もおり、さりげない気配りで入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴から来る得意分野で力を発揮でき、楽しんでもらえるように、カラオケや習字、塗り絵と好みに合った取り組みができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には事業所周辺の散歩や日向ぼっこに出掛け、気分転換している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害については全職員が理解しており、施錠はされていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下に年2回総合避難訓練を行っているし、職員数を2名とした夜間想定訓練も行っている。また運営推進会議を通じ、地元との協力体制についても進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューとカロリー計算は非常勤の栄養士が作成し、毎日の食事や水分摂取量の把握で利用者各人の栄養バランスのチェックをしている。また月2回栄養担当者会議を行い、利用者の好みも考慮した支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日の大半の時間を過ごす居間兼食堂は、明るくゆったりとした広さがあり、食後すぐ寝る人はソファで、好きな音楽を聴く人はレコードで、花の好きな方同士が花についてのおしゃべりをと、みんなで居心地の良い空間にするための話し合いもしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や手作りの作品を壁に飾ったり、自宅で使っていた馴染みのものを持ち込み、それぞれ各人が居心地のよい部屋づくりをしている。またトイレは2人に1つ、洗面所は各室に1つあるので他人を気遣うことなく過ごせている。		